



## 試行錯誤と問題解決で喜びを

校長 田邊 雅也

### 美しい無人島がゴミと糞の島に

夏休みに帰省し、知人に誘われ、日本海にある小さな無人島を清掃するボランティアに参加したときのことを紹介させていただきます。

この無人島の課題は2つありました。国内外から漂流するごみを清掃することと、糞の被害をもたらす鷺（さぎ）を撃退することでした。鷺は数十羽から数百羽の集団で行動し、たくさん巣をつくるため、雪を降らせたかのように島全体を糞で真っ白にしてしまいました。植物は光合成ができず枯れてしまい、異臭が漂うごみだらけの島になってしまったのです。無人島というと、自然豊かで美しいイメージですが、人も住んでいないのに、何年もごみと糞の島になっていました。私が幼いころに見た、あの美しい島ではなかったようです。

### 試行錯誤の末、鷹匠（たかじょう）の登場

美しい無人島を取り戻すために、地元の方は、役所と協力してボランティアを結成し、ごみの掃除と鷺の撃退を始めました。鷺の撃退については、人が棒で巣を取り除くという根気のいる作業でした。ところが、ボランティアの皆さんが定期的に巣を駆除しても、集団でやってくる鷺は次々に新しい巣をつくり、島は糞で真っ白にしてしまいました。

そこで、地元の方は考えました。鷺を島から追い払うために、鷹匠（たかじょう）（※）を招き、鷹を定期的に放つことにしたのです。この島は鷹が来るような危険な島だ、と鷺に思い込ませ、巣を作らせないようにしました。粘り強く取り組み続けた結果、鷺は別の場所で繁殖を始め、無人島は以前の美しい姿を取り戻し、今では海水浴ができるまでになりました。人間にとっても自然にとってもウェルビーイング（よい状態）にすることができました。

### 人生は試行錯誤と問題解決の連続

夏休み前に「Student Agency」を高める「AARサイクル（OECD Learning Compass 2030－OECD学びの羅針盤2030－）」を紹介しました。子供たちの学びの中に、試行錯誤や問題解決を促す「AARサイクル」を取り入れ、皆がウェルビーイングを感じられる教育が求められています。

変化の激しい未来は予測困難で、世の中は解決すべき課題に溢れているのですから。人生は試行錯誤と問題解決の連続です。

**Student Agencyを高める「AARサイクル」**  
Anticipation … 自分で問いを立て、見通す  
Action … 自分で学び、行動する  
Reflection … 振り返る  
さらなる問い（Anticipation）へ  
そしてWell-beingを目指して

### 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）との連携

今年度から本校では学校運営協議会（コミュニティ・スクール、委員8名）が動き出しています。学校、保護者、地域の皆さんと共に知恵を出し合い、協働しながら子供たちの豊かな成長を支えていくという、法に基づいた全国的な動きです。この夏、県が主催するオンラインの研究に委員の皆さんと参加し、学校運営協議会のよりよい運営方法について学びました。

本校は「自律と探究」を目指した学びを目指しています。試行錯誤や問題解決を取り入れた教育活動や、実生活でも生きて働く力を身に付けさせられる教育活動となるよう、委員の皆さんも六小の地域の一員として一緒に試行錯誤して下さっています。具体的に構想していることでもありますので、実現したら、YouTubeやFacebook等でもご紹介していきます。

### 2学期も試行錯誤、問題解決で「自律と探究」を

無人島を蘇らせるための道のりは平坦ではなかったようです。鷹匠を招き、島に美しさを取り戻すまでの粘り強い試行錯誤で問題解決をしてきたからこそ、皆がウェルビーイングを感じたのだと思います。

子供たちの学びも、教員の授業改善も、保護者・地域の学校との連携も、試行錯誤や問題解決の連続となりそうです。こうした教育改革は、子供たちを「自律した有能な学び手」に成長させ、私たちに大きな喜びを与えてくれると信じています。すぐに成果が出るか分かりませんが、「自律と探究」をさらに深掘りできる2学期となりますよう、よろしくお祈りします。

※鷹匠（たかじょう）…鷹を飼育、訓練し、鷹狩に従うことを職とした人。江戸幕府の職名。鷹狩は世界では2000年の歴史がある。日本や世界の空港では、離着陸時の航空機に鳥が衝突する「バードストライク」を減らそうと、空港内にいる鳥を鷹匠の協力で追い払うことを行っている。